

## シェフ三瀧の“時事中国語調理の秘訣”

日本語と中国語は同じ漢字を用いています。それゆえの犯しやすい間違いは多々あるのですが、20 数年間、学生がレベルと呼ぶ翻訳添削をやった経験から、中国語では動詞で使われているのに、どういうわけか日本人が見たとたん、名詞だと思い込んで間違えて訳す単語があります。それを幾つかアトラダムに挙げてみましょう。

まず、横綱格が“部署”。ほぼ「手配する」「手はずを整える」という動詞で使われますが、日本語の「部署」という名詞が頭に浮かんで、それに支配されてしまうのでしょうか。最初に出題した時は、まず皆間違える。

共通した傾向も有ります。“～化”という中国語、色々あるのですが、中国語では動詞で使われるものも多い。“淡化海水”（海水を淡化する）“激化矛盾”（矛盾を激化させる）など枚挙にいとまがありません。ところが日本人はなぜか“～化”とあると、すぐ、名詞だ、と思い込むのです。この間違いも実に多い。

紛らわしいものも有ります。よく間違うのが“组织”。“～组织”というように、有る組織、特に国際的機関の名称などにはよくこれが末尾につきます。ところが“组织”は動詞でもよく使われます。勿論、“组织起来”というように他の成分がつけばわかりやすいのですが、そうでないと、時に判別しづらいようです。特に主語が機関の名称だと、機関の名称の末尾か、それとも動詞か、見分けづらくなります。

動詞と名詞の違いではないのですが、初級の学生が間違う横綱級がもう一つ有ります。それは“一起”。“一起～案件”“一起～交通事故”のように数量詞で使われている“一起”を、あっ、「一緒に」だ、と思うから、文の構造は大混乱。“起”が量詞でも有るとは、初級の学生さんにとっては人騒がせな話です。